

王権の伸長と大型古墳 一久津川車塚古墳を中心に一

7月20日 立命・茨木キャンパスに150名以上が参加

杉浦 喜代一

快晴の7月20日(日)、久津川車塚古墳のシンポジウムが開催されるとのことで、JR茨木駅から5分ほどのところにある立命館大学茨木キャンパスに向かった。会場はH202教室、250人位は入れそうな階段教室。受付は9時30分からだったがキャンパス内でうろうろしていて、50分ぐらいに受付を済まして会場に入ると、満席とまではいかないが学生と思われる若いグループや、私たち同様な高齢者の面々もあちこちに座っていて7割ぐらいは席が埋まっている。思わず、“車塚、結構人気があるじゃないか”とうれしくなってしまった。後で聞くと会場の参加者は150人、オンラインでの参加が80人だったそうだ。

立命館大学は発祥の地・広小路キャンパスがなくなって、衣笠・草津・朱雀そしてここ茨木のキャンパスの4カ所と思っていたら、東京と大阪にもあるようだ、俗に言うタコ足大学になっている。



会場のH202教室があるH棟は、昨年4月に竣工した一番新しい建物。

定刻の10時にシンポジウム開始、司会は城陽市教委の仲林さん。

最初に和田清吾先生が、「京都盆地が研究の中心、城陽の尼塚古墳などの保存で週に1～2日は南山城に行っていた。古墳や古墳時代の全体像が分るのが南山城なので、城陽でも伝えて欲しい」と挨拶されました。

今回のシンポジウムの趣旨説明は長友朋子先生、2014年度から発掘調査が行われ墳丘の概要が把握されつつあり、最新の古墳研究の成果をふまえて、改めて久津川車塚古墳をとらえなおしたい、と述べられ、12月に第2回目のシンポジウムを行い、古墳時代に開発された大溝や古代遺跡の最新発掘調査から南山城の弥生時代から古代にいたる交易などについて明らかにしたい、と話されました。

シンポジウムの会場 H202教室

今回のシンポジウムの趣旨説明は長友朋子先生、2014年度から発掘調査が行われ墳丘の概要が把握されつつあり、最新の古墳研究の成果をふまえて、改めて久津川車塚古墳をとらえなおしたい、と述べられ、12月に第2回目のシンポジウムを行い、古墳時代に開発された大溝や古代遺跡の最新発掘調査から南山城の弥生時代から古代にいたる交易などについて明らかにしたい、と話されました。

今月の主な記事

王権の伸長と大型古墳 一久津川車塚古墳を中心に一 杉浦 喜代一

洛南艸舎訪問記 山岸秀夫／中束育代

城陽市を中心とした空襲と防空壕(上) 杉浦 喜代一